

科目名	キャリア開発入門	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	本科目は、【志學館大学におけるキャリア教育の入門・基礎編】である。キャリア開発とは何か、キャリアデザインとは何かを理解しながら、自立・自律に向けて自己と社会とのバランス感覚を磨く。そのために、ワークブックを用いて、講義と実践的な作業を取り混ぜて進めていく。
	到達目標	①キャリア開発の基礎知識を身に付け、情報を知る。 ②自己について理解を深める。 ③行動力を発揮し、学んだことを大学生活・社会生活において活用する。
授業計画	(1) キャリア開発のコツ — オリエンテーション (2) 「就職」とは何か — 学生から職業人へ (3) 私たちを取り巻く雇用・労働環境と社会が求める人材像 (4) 教養と一般常識 (5) キャリアマップとポートフォリオの活用 (6) 自分を表現して分析する① (7) 自分を表現して分析する② (8) 自分を表現して分析する③ (9) 業界・職種・企業研究入門 (10) キャリア発達・開発の諸理論 (11) 職場におけるキャリア開発 (12) コミュニケーションの技法 (13) グループ・ディスカッションの効果 (14) 志學館大学におけるアイデンティティ形成 — 創設者満田ユイ先生にみるキャリア開発術 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・進んだ部分のワークブックを読み返して考察し、必要に応じて調べ、書き足していくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。プリントとワークブックを配布する。
	参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	積極的に授業に参加し、ワークブックとレポートに適切に表現できたときに合格とする。
	方法	参加態度 30%、ワークブック 50%、レポート 20%。
備考	レポート課題の一部に読書課題を含む。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	キャリア概論	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	今後の進路を探索・選択し、生涯を通じた就業力を身に付けるために、講義や外部講師による進路講演会等によって勤労観・人生観を明確化する。また、様々な学習形式を取り入れ、自己に対して多角的にアプローチしていく。
	到達目標	①進路探索・キャリアデザインに関する知識・技能を習得する。 ②自分の将来について考え、勤労観・人生観を高め、感想文として表現する。 ③一般常識の有無を自覚して自学自習し、テストで8割以上の点数を取る。
授業計画	(1) オリエンテーション／「今」からやるべきこと (2) 進路選択のための基礎知識 (3) 自分史とこれからの大学生活 (4) キャリアデザイン講演会（入田直子氏／本学キャリア教育コーディネーター） (5) アクティブラーニング（能動的学修）のススメ (6) キャリア開発の理論と実践 (7) キャリアデザイン講演会（鹿児島県企画部交通政策課長／国土交通省） (8) 社会分析 (9) 地域分析 (10) キャリアデザイン講演会（気象予報士／鹿児島テレビ放送株式会社） (11) 自己分析 (12) 卒業生のキャリア開発 (13) キャリアデザイン講演会（地元企業役員 or 採用担当者） (14) 一般常識テスト (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・新聞を読み、社会の中の自己について考察しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配布資料や自分のノート等をもとに、さらに内容を深めておくこと。 ・授業の内容をふまえて自己の大学生活プランを見直すこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	毎回積極的に授業に参加し、考察して的確にコメントに表現し、課題を提出し、一般常識を身に付ける努力を定期的に行った場合に合格とする。
	方法	出席態度・コメントシート（70%）、新聞記事課題（20%）、一般常識テスト（10%）。
備考	・外部講師の関係で、授業の内容や順番が変わることがある。 ・読書レポート（新聞記事課題）の内容を成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	キャリアデザイン	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	「キャリア概論」を実践面で発展させた内容である。コミュニケーション力を磨くために、ワークシート、ゲーム等を活用し、頭の中を整理したうえで、グループ・ディスカッションに取り組み、人生・社会・仕事について自分の考えを明確にする。3・4年生や外部講師等の講演によって就業観も磨く。そして、自己分析・自己理解を深め、キャリアデザインを進める。
	到達目標	①自己分析を進めて言語化することで、自己形成にとって経験がいかに重要であるかを知る。 ②講義や講演から動機づけを得て、希望する職業や職場の研究を積極的に進め、各自必要な対策を練り、キャリアデザインに取り組む。 ③SPI テストで8割以上の点数を取る。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 自己分析① (3) 業界研究① (企業等担当者) (4) 自己分析② (5) 業界研究② (企業等担当者) (6) 自己分析③ (7) 業界研究③ (企業等担当者) (8) 社会人の心構えとビジネスマナーの基礎 (9) 内定者パネルディスカッション (10) グループディスカッション① リーダーシップ理論とアイスブレイク (11) グループディスカッション② 実のある話し合いの仕方 (12) グループディスカッション③ 就職活動での実例 (13) グループディスカッション④ 抽象的事象の考察・探究 (14) S P I ミニテスト (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	新聞等で時事情報に常に接しておくこと。
	事後学習	授業内容を踏まえて、自己のキャリアデザインをもとに具体的にアクションを起こし、その経過について次の授業のコメントシートで深めていくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	授業に積極的に参加し、特にワークやディスカッションを楽しむ努力の姿勢を見せた時に高く評価する。そして、授業内容をレポートに反映させ、SPI 高得点を目指して自学自
	方法	出席態度・コメント（65%）、レポート（25%）、SPI テスト（10%）。
備考	外部講師の関係で、授業の順番や内容は変わることがある。『読書』課題については、レポートのテーマの一部に取り入れる。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	キャリア開発演習Ⅰ	
担当者	◎志賀 玲子 / 野上 真 / 末吉 剛士	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 講義・演習 / 2単位 / 2年次	
	株式会社マチトビラとの連携事業	
科目概要	授業内容	企業との連携により、キャリア開発のための技能やツールに焦点を当てて実践し、地域社会において有為な人材として活躍するための知識・感覚を磨く演習を行う。そして、明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組む姿勢や、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力、勤労観・職業観を身に付け、社会人・職業人として自立するための素地を作る。
	到達目標	①視点を増やす（長期的視点、社会的視点、公益の視点など）。 ②論理的に考えることができる。 ③自分の考えをわかりやすく伝える。 ④高い意欲で自ら「気づき」を生み出せる。
授業計画	(1) オリエンテーション ガイダンスとワークショップ体験 (2) 社会人基礎力① 活躍するために必要なツール (3) 社会人基礎力② チームビルディング (4) 社会人基礎力③ コミュニケーション (5) キャリアデザイン①（導入・自己分析） マッピングメモ (6) キャリア事例 先輩の話进行こう (7) キャリアデザイン②（自己分析） 図書館めぐりから考える自己分析 (8) キャリアデザイン③（自己分析） 自分エンジンを探そう (9) キャリアデザイン④（自己分析） 社会人へのインタビューワーク (10) プロジェクト① 課題の解決に向かって全5回を使いアイデアを考え実施する (11) プロジェクト② 同 (12) プロジェクト③ 同 (13) プロジェクト④ 同 (14) プロジェクト⑤ 同 (15) キャリアデザイン（まとめ） ワールドカフェと大質問大会	
自学自習	事前学習	・新聞等によって社会情報を収集しておくこと。
	事後学習	・配布された資料や紹介された情報を確認して考察すること ・授業で学んだことを大学生活において積極的に実践し、また次の授業で周囲にフィードバックすること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	必要に応じて紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	個人や集団の様々なワークに積極的に参加し、レポート課題で自己の生き方について考察し的確に表現できた場合に合格とする。
	方法	授業参加態度（80%）、読書レポート（20%）。
備考	「キャリア開発演習Ⅱ」と連動する内容や提携企業であり、併せて履修すると学習効果が一段と高まるため、両方の履修をおすすめする。（義務ではない。）	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	キャリア開発演習Ⅱ	
担当者	◎志賀 玲子 / 野上 真 / 末吉 剛士	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 実習・演習 / 2単位 / 2年次	
	株式会社マチトビラとの連携事業	
科目概要	授業内容	「地域協働型インターンシップ」(徹底した研修でキャリア開発の技法を習得し、他大学学生とも仲間づくりをしながら、地域課題を扱う企業・NPO・団体等において実践的な就業体験を行うこと) または発信力を高める「フィールドワーク」(実地調査)に参加する。
	到達目標	①リスクマネジメントをしたうえで就業体験もしくは実地調査・情報発信をする。 ②地域での実習を通して実社会に触れる。 ③勤労観・職業観を明確にする。 ④主体性・実行力を養う。 ⑤柔軟性・規律性を学ぶ。 ⑥実習後の振り返りにより、今後の行動を再計画する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 事前研修 (コンプライアンス、情報リテラシー、目標設定) (3) 各受け入れ先企業・NPO・団体等にて就業体験実習または調査実習 (4) 同 (5) 同 (6) 同 (7) 同 (8) 同 (9) 中間研修 (状況確認、課題把握、改善策のアクションプラン策定、フォローアップ) (10) 各受け入れ先企業・NPO・団体等にて就業体験実習または調査実習 (11) 同 (12) 同 (13) 同 (14) 事後研修 (目標に対する振り返り、大学生活への活かし方) (15) 事後報告会、総まとめ	
自学自習	事前学習	・新聞等によって社会情報を収集しておくこと。 ・実習や研修で学んだことを次の日程までに再確認しておくこと。
	事後学習	・実習や研修で学んだことや気づきを言語化し、日報を作成すること。
使用教材・参考文献	使用教材	最初の授業で紹介する。
	参考文献	必要に応じて紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	実習・研修に積極的に参加し、プレゼンテーションで的確に自分の学びや気づきを伝えられた場合に合格とする。
	方法	実習・研修中の参加態度 (70%)、プレゼンテーション (30%)。
備考	できるだけ「キャリア開発演習Ⅰ」と併せて履修することを期待する。読書課題については、詳細を初回に説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	インターンシップ	
担当者	井上 隆 / INOUE, Takashi    ◎野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 実習・演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	企業や官公庁で一週間程度の職場体験実習をする。これに先立ち、企画力やビジネスマナーを向上させるための演習や実習にも取り組む。
	到達目標	演習や実習を通し、基本的なビジネスマナーや企画力、積極性、主体性を身につけるとともに、将来の進路について明確な目標意識を持つ。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 受け入れ志望先へのエントリーシート作成 (1) (3) 受け入れ志望先へのエントリーシート作成 (2) (4) 受け入れ志望先へのエントリーシート作成 (3) (5) 受け入れ志望先へのエントリーシート作成 (4) (6) ビジネスマナー講習 (7) 企画力養成講習 (8) プロジェクト実習 (1) (9) プロジェクト実習 (2) (10) プロジェクト実習 (3) (11) プロジェクト実習 (4) (12) 受け入れ先企業研究 (1) (13) 受け入れ先企業研究 (2) (14) 先輩体験談受講へ向けての準備 (15) 先輩体験談	
自学自習	事前学習	エントリーシート等提出物の作成については、演習時間内だけの作業では終わりません。事前に具体的な指示はしますので、自主的に進めること。
	事後学習	後期に実習レポートの提出と、報告会があります。
使用教材・参考文献	使用教材	演習中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	就職する前にしておきたい17のこと (本田健・だいわ文庫)
成績評価の基準と方法	基準	提出物 (エントリーシート等) の作成および、実習への誠実な取り組みが認められたものを合格とする。
	方法	読書課題 10%、レポート課題 20%、現場実習 70%
備考	最初の5回の講義は絶対に欠席しないこと (守れない者は現場実習に参加できない場合がある)。成績評価は後期の実習報告会后。読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル